

1 学校教育目標 『ふるさとを愛し、ともに学び、ともに生きていく東よかっ子の育成』 — 「元気」と「笑顔」あふれる学校 —	2 本年度の重点目標 《教育活動の重点》 児童の道徳性、自己肯定感の醸成 基礎的・基本的な学習内容の定着 支援が必要な児童への支援方法の確立
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①	領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校経営	○情報発信	・学校HPによる教育目標、学校経営の基本方針、キャッチフレーズ等の周知 ・よかっ子だより、よかよか通信等による学校情報の発信 ・学校からのお便り類のHP掲載 ・学校掲示板による情報発信	・教職員・保護者・児童の周知率を8割以上とする。 ・ホームページを毎月1回以上更新し、学校情報を発信する。 ・毎月1回以上、学校掲示板の情報更新を行う。	・学校から発行する文書の中に学校目標を入れ、その内容が理解できるように適宜説明をしていく。 ・PTA総会の折に学校説明会を開催し、学校の経営方針をアピールする。 ・学校掲示板への掲示物を工夫した内容にしている。	B	・月に一度の頻度で、学校からの通信を配布することができた。 ・ホームページは、Sei Netの変更等もあり、月によっては計画通りにいかない場合もあった。	・ホームページを更新する日時を設定し、月の始めに必ず更新する。 ・年間通して掲示する部分、月ごとに変わる部分、学年ごとなど計画を立て、職員で声をかけて共通理解する。 ・児童が進んで掲示物に興味を持つように、放送などで広めていく。	
学校経営	○教職員の資質向上	・わかる授業の創造(共通事項の確認) ・三部会の充実 ・学年経営の充実(転入職員が多いため、統一事項の確認を徹底する。)	・学年ごとに研究授業を実施する。 ・部会ごとの提案の達成及び達成感を85%以上とする。 ・学年経営の達成及び達成感を90%以上とする。	・各教科等の学習過程に「よかよかタイム」を位置づけたり、他教科との関連を意識したりする。 ・部会長を中心とし、各学年の部員が確実に部会決定事項の伝達と推進を行う。 ・学年主任(年8回)において、各学年の進捗状況を情報交換しながら、学年経営の充実を図る。	B	・今年度は「よかよかタイム」を各教科に取り入れる1年目であり、各学年で手探りの状態で行ってきた。成果としては、形態の工夫、話し合いの場の工夫など、各学年で実践できた。 ・低中学年の連携まではできなかった。	・各学年の実践の取り組みを発表する場を設けていく。 ・専門部の活動を充実させるために、これまでの道徳中心の取り組みから少しずつ教科のための活動を取り入れていく。	
学校経営	○危機管理体制	・危機管理体制の整備	・避難訓練(3回)の意図に沿って、充実を目指す。 ・連絡網と緊急メールを一本化し、確実な連絡を行う。 ・緊急時を想定した、児童の保護者引渡し訓練を計画する。	・外部との連携を図り、より実践的な訓練を目指す。 ・3回の避難訓練の対応について共通理解を深める。 ・緊急対応の流れ図を作成し、掲示する。 ・5月を登録強化月間とし、繰り返し保護者へ働きかけ、メール登録件数100%とする。 ・緊急時児童引渡し訓練を実施し、危機管理意識の高揚を図る。	B	・今年度は、校舎改築の引越えをする状態を考慮した避難訓練を行った。 ・仮校舎に入る学年が変わるので、避難経路の確認をする必要がある。	・火災・不審者・地震及び津波の避難訓練ごとに、避難経路を示す。	
学校経営	●業務改善	・チームによる教育活動の推進 ・時間外勤務の縮減	・学校行事等には担当者も副指名配置し、個人負担の軽減を図る。 ・役割分担を明確にし、協働体制を築いていく。 ・時間外勤務の時間を前年度比2割減とする。 ・スクラップアンドビルドの徹底。	・学校行事の目標や実施方法を見直し、効率化を図っていく。 ・指導部会で事前審議を行い、無理無駄を徹底して削っていく。	B	・学年主任及び部会で、学校行事の実施方法について見直しを行い、来年度にできる限り効率化を図るよう話し合いを行った。 ・職員同士が声をかけ、行事等の変更や改善を図ることができた。 ・会議の時間設定や、時間外勤務の時間は、個人差があるため、今後も取り組みが必要である。	・放課後補充学習や、家学の入力回数を減らし、業務改善に努める。 ・I schoolなどを活用し、話し合い以外の連絡事項の共通化を図っていく。 ・年間の中で、会議の提案事項を厳選し、重点的に話し合いが必要事項は、事前に資料を配布するなど時間短縮する方法を続けていく。	

②	領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・授業改善に向け、全職員が授業公開、授業研究会を1回以上行う。	・校内研究の年間計画に全員授業公開を位置づけ、「よかよかタイム」を意識した授業研究を計画的に実施する。	B	・「よかよかタイム」を各教科に取り入れる実践ができたこと、講師招聘し、話し合いの講話など研修できた。 ・各学年の実践が見えなかった。	・道徳ではない教科の授業研究、授業研究会を開催する。 ・低中高学年で貼った字段階に応じた話し合いのマニュアルなどを考えていきたい。	
教育活動	●学力の向上	・基礎基本の定着 ・家庭学習の充実 ・補充指導の充実	・すくすくタイムの問題等を活用し、基礎基本の定着を図る。 ・学習習慣を身に付けさせる。(国語の読み取る力の向上のため、読書の推進を図る。) ・家庭学習の充実を図るための啓発を進める。 ・つまずきの程度に応じて補充指導を実施する。	・図書館での年間貸し出し目標を設定する。(1・2年…150冊、3・4年…100冊、5・6年…80冊)に中学年と高学年は到達できた。 ・「学習のやくそく」を随時振り返らせ、85%の児童に身に付けさせる。 ・家庭学習が充実するように、「家庭での5つ約束」を、PTA総会、学級懇談会、学級通信等で家庭への啓発を繰り返す。 ・小中連携を図り、「家学・家読アンケート」(年間5回)を実施し、95%を回収する。また、家庭学習の学年目標達成率80%をめざす。 ・指導法改善担当や学年を中心に昼休みや放課後の補充指導を週1回行う。 ・土曜日授業の機会を捉えて、地域人材の協力をいただき、算数の学力向上のための授業を行う。 ・「シチメンソウまつり」全児童による灯籠づくり、ボランティアガイドの参加促進。 ・学級ごとに、校門周辺での朝の挨拶運動を地域の人や保護者と一緒に行う。	B	・図書館での年間貸し出し目標(1・2年…150冊、3・4年…100冊、5・6年…80冊)に中学年と高学年は到達できた。 ・「学習のやくそく」を、85%の児童に身に付けさせることができた学年が半数だった。 ・家庭学習は、9割が提出できていた。残りの1割の児童は、学校で取り組ませるとともに家庭での学習の重要性を伝えている。 ・「家学・家読アンケート」(年間5回)を実施し、95%を回収することができ、小中連携を図ることができた。 ・放課後や昼休みの補充指導は、時間を見つけて行うことができた。 ・地域人材の協力で土曜日授業を計画的におこなうことができた。児童のアンケートでもお馴染みの児童が「よかっ子」に答えていた。	・図書館での年間貸し出し目標は、児童の貸し出しへの励みになった。低学年が達成できなかったが、図書室の時間を活用して読書の興味を高める。 ・「学習のやくそく」は、学年の始めに毎時間取り組ませ、意識づけを行う。 ・家庭での学習の大切さをPTA総会、学級懇談会、学級通信等で家庭へ啓発するとともに、家学・家読カードでも家庭学習の重要性を伝えている。 ・「家学・家読アンケート」は中学校のテストに合わせて実施時期を検討し、家族での意識づけを図る。 ・補充授業の場所として、学習室を全学年で使用することで、落ち着いて学習できるようにする。 ・低学年の児童の基礎学力をあげるために、土曜日授業で協力していただけるボランティアを募って増やしていきたい。	
教育活動	○市民性を育むための、教育活動の展開	・地域の物的・人的学習環境を導入 ・東与賀町民の一員であることの実感	・生活科、総合的な学習の内容を再構築する。 ・「シチメンソウまつり」「東与賀町文化祭」等への積極的な参加をとおして、地域の一員であることを実感させる。 ・各種団体等と連携した地域連携活動の充実	・生活科、総合的な学習の内容を再構築する。 ・「シチメンソウまつり」全児童による灯籠づくり、ボランティアガイドの参加促進。 ・学級ごとに、校門周辺での朝の挨拶運動を地域の人や保護者と一緒に行う。	B	・総合的な学習については、各学年で計画通りに実施し、関係機関や地域と連携を図って、児童の活動を保障することができた。「放課先生」の資金がなくなったため、4年生、5年生の活動を検討する必要がある。 ・生活科の学習については、各学年の計画通りに実施し、保護者や地域と連携を図り、児童との交流を深めることができた。	・4年生の大豆の学習を無くす方向で検討する。 ・5年生の米作りについては、赤子が出ないように、もち米の販売価格を決定するなどして、活動が継続できるようにする。 ・2年生においても、夏野菜や冬野菜を育てるにあたって、老人の方との交流活動を検討する。 ・3年生の「マエビのかきあげ」については、仮設校舎で調理ができないので、なくす方向で検討する。	

③	領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の改善 ・学級経営の充実 ・たてわり活動の充実 ・特別支援教育の充実 ・教育相談の充実	・道徳の時間の充実を図り、児童の道徳的価値の自覚を深めていく。 ・Q-Uテストを年1回実施し、学級経営に反映させる。 ・たてわりでの遊び・掃除・給食・学校行事を実施し、たてわり活動の充実を図る。 ・学習環境・授業のUD化を意識していく。 ・児童の困り感を早期発見し、対応する。	・各教科等との関連を意識した「道徳の時間」を実施する。 ・「ほかけカード」の活用方法について見直しをし児童一人一人の自己肯定感を高める。 ・学級経営研究会において、Q-Uテストの分析をもとにした経営案を策定し、不満足群を10%以下に減らさせる。 ・たてわり活動を計画的に実施し、児童の達成感を85%以上とする。 ・視覚的な支援(ICT活用)を積極的に導入していく。 ・生活指導協議会(第4水曜)で、児童の実態把握と特別支援教育の手法の情報を共有する。	B	・道徳の時間は各学年実施することができた。各教科への活用については、まだ実践不足である。	・各教科での「よかよかタイム」の活用を推進していく。	
教育活動	●健康・体力づくり	・食に関する指導の充実 ・保健に関する指導の充実 ・体力向上に関する指導の充実	・学校給食を通して、食事のマナーや感謝の気持ちを育てる。 ・弁当作り(5・6年生)や食育講演会を通して、食の大切さや食に対する関心を高める。 ・自分の心と体に興味をもち、進んで健康、体力作りに取り組む児童を育てる。	・給食便りや親子料理教室・給食試食会等を通して地域や家庭との連携と啓発を図る。 ・栄養職員と連携した食育の授業に取り組み、保護者に参加してもらったり参加型の授業を行った。 ・保護者と連携して、自分の弁当を自分でつくる経験を積ませる。また、食育講演会を通して食に関する関心を高める。 ・養護教諭と担任が協力して、授業に取り組み、児童の健康意識を高める。	B	・歯科保健指導や熱中症についての指導を養護教諭が担任と共に行うことで、児童等が健康課題を意識することにはつながったと思うが、行動変容に結び付くような手立てが不足していた。 ・各学年に1回「よかっ子オリンピック」を実施することができた。よかっ子オリンピックに向け、児童が休み時間等外でその種目の練習をする姿が見られた。各が	・ほかけだよりや掲示物等を通して、児童等が学習内容について振り返ることができる機会を増やす。	
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめへの予防的指導の実施 ・いじめ防止対策委員会の活性化	・児童の実態把握のためのアンケートをとり、いじめ問題等、早期発見を行う。 ・いじめ防止対策委員会を年2回開催し、対応等の確認をする。	・アンケートを7月に実施する。 ・「〇月の心」を1月1回行い、子どもと保護者の両面から実施する。 ・人権・同和教育の視点に立った「いじめ・命を考えた日」の取組を工夫する。 ・全校集会や講演会とおとしたいじめへの予防的指導を行う。 ・心のアンケートやいじめアンケートを通して子どもや保護者からの情報を得ながら、いじめ「0」を目指していく。講じた対策が適切であったか、対策委員会で検討し、次へ生かすようにする。	B	・山崎岩崎いじめアンケートを取ったことで、いじめの発見につながった。 ・心のアンケート「〇月の心」を通して、児童の些細な気持ちの変化や悩みに気付くことができるようになり、いじめの早期発見にもつながった。	・心のアンケート「〇月の心」で気になる言葉が書かれている児童に対して、二者面談を行い、児童の心の安定といじめの早期発見につなげていく。 ・例年通り、いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見をしていく。	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	
特定課題	低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活習慣・学習習慣の育成 ・家庭との連携による学習環境の改善充実	・小学校低学年の指導に関する計画書が「おおむね達成」になる。 ・「家読・家学」アンケート実施に達成割合が80%以上になる。	・小学校低学年の指導に関する計画書が「おおむね達成」になる。 ・「家読・家学」アンケート実施において達成割合が80%以上になる。	B	・学校生活のルールについては、少しずつ理解してきたが、それをしっかりと守るレベルには至っていない。	・学校の重点項目である「廊下歩行・挨拶・身なり・無言掃除」を継続して指導していく。	

4 本年度のまとめ・次年度の取組
 ・保護者アンケートでは、児童が元気があり、挨拶がよくなっているという印象であることが分かった。
 ・言葉遣いについて課題が残る。道徳教育との関連を語りながら充実させていきたい。
 ・分かりやすい授業の工夫については、保護者はよく工夫されていると感じておられることが分かった。今後とも授業中にICT等や学び合い活動を活用し、分かる授業改革を目指したい。
 ・基礎的・基本的な内容の理解と定着が十分でない児童がおり、学習習慣の確立を図っていく必要がある。保護者の啓発を今後も図っていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目